

＜ もくじ ＞	
1. 2017年度定時総会・第16回大会開催日のお知らせ	1
2. 第3回研究会合同イベント 社会保障研究会100回記念シンポジウム 「社会保障の明日を考える」報告	1
3. 2017年大会に向けた読書会のご報告とご案内	2～3
4. 研究会からのお知らせ	3
5. 各研究会の概要報告	3～4

1. 2017年度定時総会・第16回大会開催日のお知らせ

2017年度総会・第16回大会の日程・会場が下記の通り決定しましたのでお知らせいたします。

- 1) 日 程：2017年6月18日（日）（第一部《総会》10時～、第二部《大会》11時～）
- 2) 会 場：お茶の水女子大学 本館 306室（東京都文京区大塚）
- 3) 大会テーマ：「分断社会を超えて —持続可能な超高齢社会2—」

2017年度は第3期3ヶ年計画の2年目に当たり、「持続可能な超高齢社会を目指して」の基本テーマの下、「分断社会を超えて—持続可能な超高齢社会2」のテーマで展開します。世界と日本における分断状況を明らかにし、それを克服する道をさぐりたいと思います。基調講演は、井手英策慶應義塾大学教授です。多くの方のご参加をお待ちしております。

（既に、JAAS News 第210号及び学会ホームページにおいて、会長の「年頭の辞」の中で6月11日（日）とお伝えしておりましたが、開催日が上記のように変更となりました）

2. 第3回研究会合同イベント 社会保障研究会100回記念 シンポジウム「社会保障の明日を考える」報告

【開催概要】

開催日と会場 2017年3月5日（日） 東京家政学院大学

開会の挨拶 長田攻一（シニア社会学会事務局長代理）

パネリスト

袖井孝子（シニア社会学会会長）

「社会保障制度を崩壊させないために」

坂本純一（野村総合研究所、当学会会員）

「持続可能な年金制度を確立するために」

酒井忠昭（医師・認定NPO法人ホムアツカがーツ理事長、当学会会員）

「これからの高齢者医療—いくつかのトピックス」

コメンテーター

辻 哲夫（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、当学会会員）

コーディネーター

福田明美（NEC、当学会会員）

閉会の挨拶

濱口晴彦（シニア社会学会副会長）

【報告概要】

2004年から始まった社会保障研究会が100回を重ねたことを記念して、シンポジウムが開催された。これは、シニア社会学会におけるいくつかの研究会の交流をめざすものでものである。当日は好天に恵まれ、57名（うち非会員20名）の参加があり盛況であった。シンポジウム終了後の懇親会には45名が参加し、講師をまじえて活発な意見交換が行われた。シンポジウムの詳しい報告は、「エイジレスフォーラム」15号に譲り、ここでは、各講師の発言を簡潔にまとめることにする。



袖井 日本の社会保障制度の特徴として、以下の点があげられる。

①高齢化のスピードがきわめて速く、社会保険料を支払う人口に比べ受給者の増加が著しい。②年金・医療・福祉・雇用などの制度間が不整合である。③給付が高齢者に偏りすぎている。世界に誇れる国民皆年金皆保険制度を維持するためには、働いて社会保険料を支払う人口を増やすことが必要である。そのためには、



ICTの活用や在宅勤務・フレックスタイムなど柔軟な働き方をすすめることで、高齢者・女性・障害者の就労促進を図る必要がある。

坂本 人口の高齢化と非正規雇用者の増大により、公的年金をめぐる環境は、かなり厳しい。しかし、2013年8月に与野党合意のもとに設立された社会保障制度改革国民会議の報告書に示された方向性を守ることで、制度の持続性と給付の十分性を確保することは可能である。すなわち、①デフレ下においても、マクロ経済スライドをフルに適用すること、②短時間労働者への被用者保険の適用拡大、③保険料拠出期間の延長と繰り下げ受給の活用を実行していくことである。平均余命が伸長している今日、できるだけ長く就労することや給付水準を切り下げることで、次世代への給付を確保することが可能になる。

酒井 国民の共有財産としての医療を護り、維持するために、国民、医療者、行政、保険者、製薬業者、ジャーナリストなど医療にかかわるすべてのステークホルダーが、各々の義務を果たし、犠牲と譲歩をすることが必要である。そのためには、「医療基本法」を制定し、国民医療政策会議（仮称）に政策形成をゆだねるべきである。認知症になる以前の自立期において、人生全体を俯瞰し、人生をまとめ、終末期における希望について、家族や専門家と話し合うアドバンス・ケア・プランニングを実施する必要がある。

辻 人は必ず老い衰える。フレイル（虚弱・老年症候群）になるのをできるだけ遅らせることが望ましい。フレイル予防のためには、蛋白質や野菜を摂取して筋肉の衰えを防ぐ一方、口腔機能・精神心理状態・身体活動の維持を心がける必要がある。一般に、社会性が衰えるとフレイルになりやすい。社会性を維持する最善の方法は働くことである。高齢者の就労の場を地域に創り出すためには、企業にも協力してほしい。とはいえ、人は老い衰え、人の世話になることは避けがたい。そうした状態になっても在宅で暮らし続けるには、在宅医療の確立と小規模多機能施設を中心とした在宅サービスの実現が鍵である。（袖井孝子 記）

3. 2017年大会に向けた読書会のご報告とご案内

JAAS News 211号でもご案内しましたが、第16回大会（2017年6月18日）では、3か年計画「持続可能な超高齢社会を目指して」の2年目として「分断社会を超えて」というテーマを設定し、井手英策先生（慶應義塾大学教授、財政社会学）に基調講演をお願いしております。企画委員会では、大会準備のために、井手さんの主要著書『経済の時代の終焉』岩波書店、2015（大佛次郎賞受賞）の「読書会」を開催しております。参加者は、日によって入れ替わりがありますが、第1回は7名、第2回は8名、第3回も8名の参加者を得て開催いたしました。4月17日（月）は、第4章と、井出さんのアイデアの核心をまとめた終章になります。

これが最後の会になりますが、ご参加いただける方は大歓迎です。メールまたは電話・FAXにて奮ってご応募下さい。

第4回 2017年4月17日(月) 14:00~16:00 (報告)長田攻一

第4章 「なぜ財政危機が問題なのか？」

終章 「経済の時代の終焉—再配分と互酬のあたらしい同盟」

場 所：シニア社会学会事務所

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX：(03) 5778-4728 e-mail：jaas@circus.ocn.ne.jp

必要であれば終了した回の資料のコピーも用意いたします。

読書会を通して、また、読書会には参加できない場合でも、本書あるいは他の著作などお読みいただくと、大会への関心は一層高まるものと期待しております。

井手英策さんの以下の著作も大変参考になります。

- ・井手英策 『日本財政 転換の指針』(岩波新書)2015
- ・井手英策 『財政赤字の淵源』、有斐閣、2012
- ・井手英策、松沢裕作『分断社会・日本』、(岩波ブックレット No.952)、2016
- ・井手英策、佐藤 優、前原誠司『分断社会 ニッポン』、(朝日新書)、2016
- ・井手英策、古市将人、宮崎雅人『分断社会を終わらせる』、筑摩選書、2016

(大会企画委員会)

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第42回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2017年3月23日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：濱口座長のレクチャー — 「シニア社会のリテラシー — 『老いる権利』という考え方について」

4) 参加費：300円

*お問い合わせは、事務局・島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)迄お願い致します。

(2) 第38回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2017年3月27日(月) 18:00~20:00

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館5階第5会議室

3) 講 師：野坂 真(早稲田大学大学院文学研究科社会学コース博士課程)

4) テーマ：「災害と共に生きる地方社会—岩手県大槌町における地域の記憶継承に向けた取り組みから」

5) 参加費：500円(ただし、社会人を除く学生、早稲田大学総合人文科学研究センター<現代の危機と共生社会>研究部門および、早稲田大学プロジェクト研究所のメンバーは無料)

*お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)までお願いいたします。

4. 各研究会の概要報告

(1) 第37回「災害と地域社会」研究会の概要報告

1) 日 時：2017年1月18日(水) 18:00~20:00

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室

3) 報告者: 紺野泰洋(早稲田大学大学院教育学研究科社会科教育専攻社会学コース修士課程)

4) テーマ: 「繋がり」のライブハウス——東北ライブハウス大作戦と大船渡LIVEHOUSE
FREAKSをめぐって

5) 報告概要

紺野康洋さんは、2017年3月に早稲田大学大学院教育学研究科の修士課程を終えられる学生さんですが、気仙沼出身でご家族とも東日本大震災の津波被害を経験されました。当時は学部学生でしたが、その後早稲田大学の大学院に進んで、被災経験をもとに修士論文を書こうと決意したそうです。とはいえ、もともと音楽好きでバンド演奏の経験もあったことから、震災1年後に東北被災地、大船渡市、宮古市、石巻市に相次いで開催されていた「東北ライブハウス大作戦」にボランティアとして参加し、震災復興過程において、音楽を通じて分断された人びとがつながりを求めていく場について研究しようと、スタッフへのインタビューを開始したそうです。

方法としては、震災以前のライブハウスでのスタッフの人びとのつながりの質と、震災後のライブハウス・プロジェクトにおけるスタッフ間のつながりの質の変化を、社会関係資本の概念を適用しつつ分析するというものです。その結果、震災以前のこの地域における音楽実践で蓄積されていた多様な集団内の結束型社会関係資本、地域における音楽実践の「情熱」、震災後全国規模で東北ライブハウス大作戦が広げた支援のネットワークといった「繋がり」が、このライブハウスを支えていたこと、さらには、震災後のライブハウスは、地域内外に開かれた「つながり」自体を楽しむ場としても機能していた、という発見があったということでした。

研究会参加者からは、社会関係資本の概念ではとらえきれない、経済的關係、地域の産業、地域の自然とのかかわりなど、「つながり」がもつ多様な側面についての質疑がなされ、人と人をつなげる上での音楽そのものの特質や力についてももう少し研究が深まるとよいといった議論もあり、本研究会でこれまであまり考察してこなかったテーマについて、それぞれの体験をも披露しながら語り合う研究会となりました。(長田記)

(2) 第41回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時: 2017年2月23日(木) 15:00~18:15

2) 場 所: 早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ: ①安田コーディネーターの発表と討議 — 「持続可能な超高齢社会への課題と解決の方向性」

②「格差・貧困・分断をテーマにした新聞の切り抜き」報告 — 佐藤敬さん、島村健次郎さん、安田和紘さん。

・濱口座長のコメントとして、新聞の切り抜きの効用は、作業を行なうことによる気づきと学びである。そして視点を定め、大きな流れは何であるのか、着陸点を見極めることである。また、切り抜きの中から、「OOOゼーション」(—zation 例。globalization) 現象をつかみ取ることが大切である。

※お問い合わせは、事務局・島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) 迄お願い致します。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX: (03) 5778-4728

eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>